

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 九州ルーテル学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人九州ルーテル学院 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|------|------------------------|-----------|-----------------------|---------|------|-----|-------------|------|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 人文学部 | 人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻 | 夜・通信 | 26 | 0 | 22 | 48 | 13 | |
| | 人文学科 こども専攻 | 夜・通信 | | | 60 | 86 | 13 | |
| | 心理臨床学科 | 夜・通信 | | | 88 | 114 | 13 | |
| (備考) | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| 大学ホームページに記載 https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/kamokuichiran2022.pdf |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 九州ルーテル学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人九州ルーテル学院 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Trustees2022.pdf |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|----------|-------------|-------------------------|-----------------|
| 非常勤 | 教会牧師 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 教会との連携 |
| 非常勤 | 大学学長 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 教育全般・教学マネジメント |
| 非常勤 | 教会牧師 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 幼保・福祉関連情報の還元 |
| 非常勤 | 元社会福祉法人施設長 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | コンプライアンス |
| 非常勤 | 中高同窓会会長 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 卒業生との連携 |
| 非常勤 | 短大・大学同窓会副会長 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 卒業生との連携 |
| 非常勤 | 会社代表取締役 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 財務運営及び経営 |
| 非常勤 | 会社代表取締役 | 2020. 10. 1～2024. 9. 30 | 財務運営及び経営 |
| 非常勤 | 社会福祉法人施設長 | 2022. 4. 1～2024. 9. 30 | 教育全般 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 九州ルーテル学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人九州ルーテル学院 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成にあたっては「シラバス作成・授業実践ガイド」に基づき作成することとしており、主に以下の内容を記載することを求めている。 <ul style="list-style-type: none"> ①授業の実施方法と内容、②到達目標、③事前・事後学修の進め方、④評価方法・基準の明示、⑤アクティブラーニングの実施方法、⑥ナンバリング、⑦ディプロマポリシーとの関連、⑧ICT活用、⑨「実務経験を活かした授業」に関する記述 ・作成されたシラバスは、「シラバス・セルフ・チェックシート」を用い、授業担当者自らが点検を行った後、大学内のシラバスチェック担当者による二重チェックを実施し、「シラバスチェック実施管理表」への登録を経て、完成としている。 ・シラバスの公開は「学生向けポータルサイト」「大学ホームページの情報公開」により3月末に公開している。 | |
| 授業計画書の公表方法 | <p>学内向けポータルサイト https://portalsystem.klc.ac.jp/ 大学ホームページ https://portalsystem.klc.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則第17条(成績評定)及び成績評定規程において、授業時間数の3分の1以上を欠席した場合、評定の対象から除外することを定めており、学修意欲が見込めない場合には単位を認めないことを明記している。 ・各授業のシラバスにおいて、「関心・意欲・態度」の項目を設定し、授業への積極的な参加を測定し評定とすることを記載しており、学習意欲の向上を図る取組みを行っている。 ・学修成果の評価方法等については、「シラバス作成・授業実践ガイド」において①評価方法、②評価の割合、③評価の観点を明示するよう求めている。 ・成績の取り扱いに関して、教員と学生の相互理解を推進することを目的として、学生からの成績に関する異議申し立てを行う機会を設けている。 ・卒業論文については4年次必修科目「卒業研究」を設けており、評価にあたっては、「ルーブリック評価」を行っている。又、3年後期に「特別研究」を設定している。「特別研究」は3年前期終了時に80単位取得できていることを条件しており、「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」において規定している。 | |

| | |
|---|--|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法は「成績評定規程」に基づき、秀・優・良・可・不可の5段階で評価するとともに、「九州ルーテル学院大学 GPA 制度に関する規程」「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」を設け、各学年の年度末の成績について、取得単位数及びGPAによる評価を行い、修学の指導・支援の対象とすることを定めている。 ・GPAは、各授業科目5段階の成績評価に対応して、4~0のグレードポイントを付与して算出する1単位当たりのポイント値を用いている。 ・GPAは各学期終了後、学生に配布する成績通知書にて通知している。 <p>また、各学科、カリキュラム毎にGPAの分布の分析を行い、学内の学生支援懇談会において説明し、学生指導に活用している。</p> <p>なお、GPAによる成績評価については、2021年度入学生より12段階のGPA評価を用い、よりきめ細やかな指導が行えるよう改善した。</p> <p>同資料は、本学ホームページにて「GPA分布」を公開している。</p> | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | <p>大学ホームページ</p> <p>① 成績評定規程 https://www.klc.ac.jp/src/kisoku/seisekihyotei2022.pdf</p> <p>② 九州ルーテル学院大学 GPA 制度に関する規程 https://www.klc.ac.jp/src/kisoku/gpa2022.pdf</p> <p>③ 九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程 https://www.klc.ac.jp/src/kisoku/kyoikunositsu-hosho2022.pdf</p> <p>④ GPA 分布 https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/gapbunpu2022.pdf</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を学部全体及び学科毎に定め、大学ホームページ、学校案内等において公表している。 ・学則に規定する卒業要件の審査は、履修規程及び学位規程に則り、卒業判定会議において一人ひとりの卒業を認定している。 ・2018年度より、卒業生に対してアンケート調査を実施しており、卒業する学生への教育効果の測定及び学生支援の満足度を把握し、本学の教育・学生支援を点検し、改善を図る取組みを行っている。 | |
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | <p>大学ホームページ</p> <p>①ディプロマ・ポリシー https://www.klc.ac.jp/profile/admissionpolicy/</p> <p>②学位規程 https://www.klc.ac.jp/disclosure/pdf2/gakui.pdf</p> <p>③履修規定 https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/hitsuyoutanni2021_2.pdf</p> <p>④卒業生アンケート https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/sotsugyosei2020_2.pdf</p> |

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 九州ルーテル学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人九州ルーテル学院 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | 学院HP https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Statement_of_Accounts_2021.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | 学院HP https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Statement_of_Accounts_2021.pdf |
| 財産目録 | 学院HP https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Property_2021.pdf |
| 事業報告書 | 学院HP https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Annual_Report_2021.pdf |
| 監事による監査報告(書) | 学院HP https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Internal_Auditors_2021.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|--|
| 単年度計画(名称:事業計画書 対象年度:2022年度) |
| 公表方法:学院HP https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Annual_Plan_2022.pdf |
| 中長期計画(名称:九州ルーテル学院中期計画 対象年度:2020~2029年度) |
| 公表方法:学院HP https://www.kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/medium-range2020.pdf |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|--|
| 公表方法:大学HP https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/Self_Assesment_College_2021_2.pdf |
|--|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|---|
| 公表方法:大学HP https://www.klc.ac.jp/etc/juaa.php (2015年度評価結果) |
|---|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 人文学部 |
| 教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ） https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/kenkyujonokuteki2013.pdf |
| （概要）九州ルーテル学院大学学則第 1 条（目的及び使命） 九州ルーテル学院大学（以下「本学」という。）は、キリスト教の精神を基盤にして、教育基本法及び学校教育法の定めにより、「感恩奉仕」の学風のもとに、深く専門の学芸を教育研究し、職業及び社会生活に必要な教育を施し、あわせて情操豊かで国際性に富む全人的な人間性を涵養し、もって広く福祉と社会・文化の向上に資する人材を育成することを目的とする。 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ） https://www.klc.ac.jp/profile/admissionpolicy/ |
| （概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得し、以下の能力を備えた学生に学士（人文学）の学位を授与します。 学部（共通教育科目） 1. 広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間力 2. 教養と専門に関する知識を身につけ、社会のさまざまな分野で活動できる能力 3. 社会の動向に関心を持ち、その変化やニーズに対応できる能力 人文学部人文学科キャリア・イングリッシュ専攻 1. 国際社会や実務で通用する英語運用能力（読む・書く・聞く・話す）を修得し活用できる 2. グローバルで幅広い視野と深い教養を身につけ、異文化社会の多様性を理解できる 3. IT 技術、情報リテラシーやビジネスに関する知識・倫理観、社会人としてのコミュニケーション力を身につけている 4. 自己の意見や考えを積極的かつ適切に他者に対して発言・発信できる 5. 卒業研究を通して、自ら課題を分析し、解決・結論に導く方策を構築できる 人文学部人文学科こども専攻（保育コース） 1. 保育・幼児教育の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる 2. 保育・幼児教育のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる 3. 保育・幼児教育の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる 4. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる 5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を活かしてアプローチすることができる 6. 保育・幼児教育に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる 人文学部人文学科こども専攻（児童教育コース） 1. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる 2. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる 3. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる |

4. 小学校等での実習やさまざまなボランティア活動における協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心をもち、教育者としての視点を活かしてアプローチすることができる
6. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

心理臨床学科（心理臨床学科科目）

1. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
2. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
3. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
4. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心をもち、心理学、特別支援教育、精神保健福祉の視点を活かしてアプローチすることができる
6. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.klc.ac.jp/profile/admissionpolicy/>

（概要）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程編成の方針

(1) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

少人数教育により、実践的な英語運用能力、豊かなビジネスの知識やITスキルを身につけ、さらに多彩なリベラルアーツ科目を学び、卒業後に国際社会や英語教育界等で活躍できる人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

2) こども専攻

① 保育コース

教育に携わる者としての使命感を持ち、豊かな人間性と高い専門的知識・技能を身につけ、感恩奉仕の精神を拠り所にし、保育者として、心身共に健全な人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

② 児童教育コース

児童教育に携わる者としての使命感を持ち、豊かな人間性と高い専門知識・技能を身につけ、グローバルな視野を持って現代の教育課題に柔軟に対応できる人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

(2) 心理臨床学科

他者および人間環境を幅広い視点で理解・受容するとともに、現代の世情や地域・現場ニーズを考慮しながら、鋭い感性と的確な判断力に基づいて問題解決を図ることができる人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

教育課程の実施方針

(1) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

1. 基礎力と専門知識

国際人として広い視野と豊かな教養や専門知識を持った学生を育成するために、1, 2年次では、英語の4技能《読む・書く・聞く・話す》をバランス良く伸ばすため、少人数の習熟度別英語クラスを編成し、週2～3回の集中的な授業を行います。

さらに、情報に関するリテラシーと知識、経営・ビジネスに関する知識を幅広く修得させる授業科目を開設します。

3年次からは、少人数ゼミと並行し、専攻内の4つのコースと関連するより専門的な科目群を開設し、基礎力の応用を高めます。

2. 知識と体験学修

世界や国内で日々起こっている様々な出来事や動向に関心を持ち、グローバルに活躍できる国際人となるためには、講義で修得した英語力、海外についての知識、ITスキル、国内外のビジネス知識を実際の場面で実践することが必要です。異文化理解、職場体験（インターンシップ）、小学校英語活動、教育実習、教育現場体験等の様々な体験学修を通じて知識と実践力の融合を図ります。

3. 発言・発信力と多様性の理解

グローバル化が進む現代では、英語やITを使って情報を発信し、文化の多様性を理解する必要性がますます高まっています。自己の意見を積極的に発言・発信できる国際人を育成するために、3、4年次では、双方向のコミュニケーション能力を高めるための授業を行います。

2) こども専攻

① 保育コース

1. 保育の専門性と人間性

保育に携わる者の倫理観・専門職としてのモラル・人間性を培うために、1年次より人格形成のための講義を計画的に取り入れ、保育者としての力量を高めます。また、1～4年次生の教科を関連させ、学びの系統性を踏まえ、総合的な学修力を身に付けます。

2. 保育における理論と実践の融合

大学で学んだ理論を実践に結びつける教科統合型の総合的な力を育成することにより、実習の質と内容の充実を図りながら、理論と実際を結び付ける実践力の育成を目指します。

3. 幼児理解と技能教科の充実・強化

音楽、環境構成の制作等、幼児教育に必要なピアノ・造形等の基本的な基礎技能の向上を深めます。

② 児童教育コース

1. 豊かな教養に根ざした専門的知識・技能の修得

共通教育科目等で豊かな教養を培いながら、同時に、小学校音楽演習、理科演習、図画工作演習等の独自科目を開設し、専門的知識・技能を育みます。

2. 教育における理論と実践の融合

教科教育法、特別研究、卒業研究等を通じて、教材研究や教育実践研究の方法を身に付けられるようにし、学び続ける教育者として求められる資質・能力を育てます。また、教育課題への理解を深め、共生社会の実現という理念に基づいて主体的にその課題に取り組もうとする態度を養います。

3. 体験学修の充実

児童教育フィールドワーク等で行われる小学校等での実習や、様々なボランティア活動を通じて、教育者としての体験的・実践的活動能力の深化・発展を図ります。

(2) 心理臨床学科

1. 幅広い視点と判断力・解決力を培うための幅広い教養と専門的知識・スキルの修得

共通教育科目で幅広い教養を身に付けながら、心理学研究法、心理メカニズム、人間の成長と環境、心理臨床的援助、特別支援教育実践、精神保健福祉的援助に関する専門的知識・スキルを高めていきます。

2. 心理学の知識を備えた特別支援学校教諭・精神保健福祉士の育成

特別支援学校教諭や精神保健福祉士を目指すうえで、自己・他者の心に向き合い、円滑な対人関係を図るために有用な心理学専門科目の修得を推奨しています。

3. 充実した演習や体験学修の提供

豊かな人間性を育むことを目指したボランティア体験、得られた心理学の知識を
確証するための心理査定や心理学実験、教育実践スキルや福祉的援助スキルを高め
るとともに、地域・現場のニーズへの理解を深めるための教育実習や援助実習を提
供しています。

4. 大学院進学に向けた科目の充実

臨床心理士または研究者を目指して大学院進学を志している学生のために、心理
学関連科目のバリエーションが広いだけでなく、大学院で必要な英文読解力を養う
ための英語科目を独自に開設しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ、募集要項）

（概要）

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学人文学部では、基本理念に沿いグローバルな視野とボランティア精神を培い専門に
関する基礎を身に付けるため、次のような意欲・熱意・態度を持った人を積極的に受け入
れます。

人文学科キャリア・イングリッシュ専攻

1. 英語に興味があり、英語力を伸ばしたいという人、また国際社会で活躍したい人
2. 英語力・ITスキルが活かせるビジネス分野に関心がある人
3. 英語教育（中・高教諭やこども英語教育）に関心がある人
4. 入学までに望まれる能力・態度・活動
 - ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力
 - ・日本の文化を知り英語でコミュニケーションを図ろうとする態度・能力
 - ・国際社会の出来事に興味関心を持って学ぶ姿勢
 - ・資格や検定等への積極的なチャレンジ

人文学科こども専攻保育コース

発達支援の能力を持った保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す人

1. 保育士として児童福祉施設や病院などで働きたい人
2. こどもの世界と保育に関心を持ちその成長を支援したい人
3. 入学までに望まれる能力・態度・活動
 - ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣
 - ・聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力
 - ・音楽（読譜等）についての基礎知識と、ピアノや歌などの技能
 - ・地域のボランティア活動への参加

人文学科こども専攻児童教育コース

1. さまざまな体験を通して自分自身を磨き、小学校教諭として活躍したい人
2. こどもの世界と小学校教育に関心を持ちその成長を支援したい人
3. 入学までに望まれる能力・態度・活動
 - ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣
 - ・聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力
 - ・広く社会に関心を持ち、主体的に考えようとする態度
 - ・地域活動や児童の発達などに関連する体験活動への参加

心理臨床学科

1. こころを科学的に理解するための知識と技術を学び、それを活かして企業、教育、医療、福祉等の現場で活躍したい人
2. さまざまな悩みを持つ人の心理的支援（カウンセラーなどの心理の専門職）に関心がある人
3. 特別支援教育（特別支援学校や特別支援学級の教師）に関心がある人

| |
|---|
| <p>4. ところに病を持つ人々への地域生活支援（精神保健福祉士）やスクールソーシャルワークに関心がある人</p> <p>5. 入学までに望まれる能力・態度・活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力 ・自分の考えを適切に主張するとともに、他者の意見に耳を傾ける力・態度。文章を読み解く力、論理的に表現する力 ・人間の多様性に興味・関心を持ち、個人の尊厳を尊重する姿勢 ・地域活動やボランティア活動、文化活動、スポーツ活動、学内行事等への参加 |
|---|

②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| <p>公表方法：大学ホームページ https://www.klc.ac.jp/departments/</p> |
|---|

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|--|--------|---|-----|----|----|-----------|-----|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 3人 | — | | | | | 3人 |
| 人文学部 | — | 11人 | 14人 | 7人 | 2人 | 0人 | 34人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | 計 | |
| 0人 | | 81人 | | | | 81人 | |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法： https://www.klc.ac.jp/profile/staff.php | | | | | |
| c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| FD・SD 委員会主催による「授業参観ウィーク」（年 1 回、1 週間の授業公開期間を設けて行う教員相互の授業参観）、FD 研修会（入試振り返り、遠隔授業、ない日質保証及び学修成果に関する取組、ティーチングポートフォリオ、IR 促進、AI・データサイエンス教育）のほか、学生による「授業評価アンケート」結果に基づく授業改善計画の策定と公開、教育・研究面で優れた成果を挙げた教員を表彰する「教育実践奨励賞」、「研究活動奨励賞」、教育改革や研究への取り組みを助成する教育改革・研究奨励制度等により、教育内容・方法の改善を図り、教員の意欲の向上を図っている。 | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|------|-------------|-------------|------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 人文学部 | 150人 | 187人 | 124% | 600人 | 703人 | 117% | 0人 | 3人 |
| 合計 | 150人 | 187人 | 124% | 600人 | 703人 | 117% | 0人 | 3人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業生数、進学者数、就職者数 | | | | |
|--|----------------|--------------|-------------------|-------------|
| 学部等名 | 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 人文学部 | 178人 (100%) | 10人 (5%) | 160人 (89%) | 8人 (4%) |
| 合計 | 178人 (100%) | 10人 (5%) | 160人 (89%) | 8人 (4%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：九州ルーテル学院大学大学院、熊本大学大学院、愛知淑徳大学大学院 就職先：一般企業（熊本銀行、日本生命保険、熊本トヨタ自動車 ほか） 保育園、幼稚園、小・中学校、特別支援学校 等 熊本市（公務員）、病院施設（県内外の医療・福祉・施設） 等々 | | | | |
| (備考) 2022年3月卒業生の状況 | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項) | | | | | |
|---|----------------|-----------------|------------|------------|------------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業生数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| 人文学部 | 181人 (100%) | 170人 (94%) | 6人 (3%) | 4人 (2%) | 1人 (1%) |
| 合計 | 181人 (100%) | 170人 (94%) | 6人 (3%) | 4人 (2%) | 1人 (1%) |
| (備考) 2018年4月入学生の卒業までの状況 | | | | | |

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間の授業科目は、前年度中に授業計画案を策定し、シラバスの作成を行う。 シラバス作成にあたっては「シラバス作成・授業実践ガイド」に基づき作成することとしており、主に以下の内容を記載することを求めている。 <ul style="list-style-type: none"> ①授業の実施方法と内容、②到達目標、③事前・事後学修の進め方、④評価方法・基準の明示、⑤アクティブラーニングの実施方法、⑥ナンバリング、⑦ディプロマポリシーとの関連、⑧ICT活用、⑨「実務経験を活かした授業」に関する記述 作成されたシラバスは、「シラバス・セルフ・チェックシート」を用い、授業担当者自らが点検を行った後、大学内のシラバスチェック担当者による二重チェックを実施し「シラバスチェック実施管理表」への登録を経て、完成としている。 シラバスの公開は「学生向けポータルサイト」「大学ホームページの情報公開」により3月末に公開している。 |
|--|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| (概要) | | | | |
|---|--------|---|----------------------|-----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 学修の成果に係る評価は、「成績評定規定」に基づき、秀（90点以上）、優（80点以上－90点未満）、良（70点以上－80点未満）、可（60点以上－70点未満）、不可（60点未満）に分類し、評価を行う。 卒業にあたっては、卒業判定会議において履修規定及び学位規定に則り、一人ひとり卒業要件を点検している。 | | | | |
| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要な単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
| 人文学部 | 人文学科 | 124 単位 | ○・無 | 49 単位 |
| | 心理臨床学科 | 124 単位 | ○・無 | 49 単位 |
| GPAの活用状況（任意記載事項） | | 公表方法：大学ホームページ（教育の質保証に関する規程） https://www.klc.ac.jp/src/kisoku/kyoikunositsu-hosho2022.pdf | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法：大学ホームページ（学生調査報告） https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/gakuseichosa2020e_1A.pdf https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/gakuseichosa2020e_234A.pdf | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|--|
| 公表方法：大学ホームページ https://www.klc.ac.jp/src/disclosure/gakuin-shisetsu2022.pdf |
|--|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考(任意記載事項) |
|------|--------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 人文学部 | 人文学科 | 680,000 円 | 200,000 円 | 246,000 円 | 施設充実費、教育充実費 |
| | 心理臨床学科 | 680,000 円 | 200,000 円 | 246,000 円 | 施設充実費、教育充実費 |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) |
| <p>年2回、前期・後期の開始時期に全教職員で全学生の情報共有を行う『学生支援懇談会』を開催している。この会は基礎疾患を持っている学生、気になる学生、欠席が目立つ学生などの情報を共有し、問題がある学生の早期発見、早期支援を行う仕組みである。</p> <p>また、障がい学生支援については、『障がい学生サポートルーム』及び『障がい学生サポート委員会』を中心に支援内容を常に確認し、教授会等でも情報を共有し支援が必要な学生について合理的配慮を行っている。本学心理臨床学科の教員の協力のもと、サポートボランティア学生を募りパソコンテイク、ノートテイク等の支援方法を学び、支援ができる学生を養成している。現在では40名程の学生が支援学生として登録し、聴覚障がい学生や肢体不自由学生、その他障害のある学生への授業支援、移動支援等を行っている。</p> <p>さらに、各学科・学年ごとにクラスがあり、アドバイザーとして教員を配置しており、同じ教員が4年間アドバイザーとして学生ひとり一人に履修登録から学生生活、進路指導など細やかな指導も行う体制整備をしている。</p> <p>このほか、本学独自の奨学金として、成績・品行・学生生活が特に優秀であり、かつ他の学生の模範となり経済的にも援助を必要とする者を対象に「九州ルーテル学院大学奨学金」制度を設けており、本学で修業する学生を奨励し、学生生活を支援している。</p> |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |

(概要)

4月のオリエンテーションにおいて、2、3年次に進路カードを提出させ、その後学生支援課にて、学生全員と個別面談を実施している。面談の内容は学生生活全般、コロナ禍での悩み、要望や進路についてのヒアリングを中心としている。また3年次後期のスタート時には進路登録カードを提出させ、進路の分類を行っている。学生個々の対応は、学生支援課と教職・保育支援センターで連携の上、アドバイザーやゼミ担当教員の協力を仰ぎ支援に注力している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生が入学時に提出する学生カードの記載事項及び、4月に全学生が受診する健康診断の結果等を学生支援課に所属する養護担当が把握し、必要と思われる支援や見守りを行っている。メンタル面での不調を訴える学生には、外部カウンセラー（臨床心理士）による学内カウンセリングを設け、支援体制を整えている。カウンセリングは予約制で、メール等で申し込み、自由に相談できる環境を整えている。

またアドバイザー（クラス担当教員）を置き、全教員が週1回のオフィスアワーを設定しており、学生生活全般においても気軽に教員にも相談しやすい環境の整備を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 HP <https://www.klc.ac.jp/disclosure/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 九州ルーテル学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人九州ルーテル学院 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 72人 | 67人 | 76人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 47人 | 47人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 12人 | 14人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 13人 | 6人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | － |
| 合計（年間） | | | | 78人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了 できないことが確定 | 0人 | — | — |
| 修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下) | 0人 | — | — |
| 出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況 | 0人 | — | — |
| 「警告」の区分に 連続して該当 | 6人 | — | — |
| 計 | 6人 | — | — |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。） | | | |
|---------|----|---|---|-----|---|
| 年間 | 0人 | 前半期 | — | 後半期 | — |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | | 年間 | 前半期 |
| 修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下) | 0人 | — | — |
| GPA等が下位4分の1 | 13人 | — | — |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 0人 | — | — |
| 計 | 13人 | — | — |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。